

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	第4回 姫路獨協大学在り方審議会
2 開催日時	令和4年1月25日(火) 13時30分～15時30分
3 開催場所	アクリエひめじ 4階 会議室409
4 出席者又は欠席者名	〔出席者〕 姫路獨協大学在り方審議会委員 11人 兵庫県中播磨県民局 1人 〔関係者〕 姫路獨協大学 1人、学校法人獨協学園法人本部 1人 〔事務局〕 政策局高等教育・地方創生担当理事、高等教育室長、高等教育室係長 2人
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴人 21人
6 議題又は案件及び結論等	1 開 会 2 挨 拶 3 議 事 (1) 姫路獨協大学からの補足説明について (2) 姫路獨協大学の今後の在り方について 4 その他 5 閉 会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

事務局	<p>1 開 会</p> <p>第4回姫路獨協大学在り方審議会を開会する。</p>
理事	<p>2 挨拶</p> <p>(政策局高等教育・地方創生担当理事挨拶)</p> <p>本日はご多用の中、第4回姫路獨協大学在り方審議会にご出席いただき感謝申し上げます。委員の皆様におかれては、11月の第3回審議会においても、終始熱心にご議論いただき、重ねて御礼を申し上げます。</p> <p>さて皆様もご承知の通り、全国的に新型コロナウイルス感染が急拡大する中、関西3府県でもまん延防止等重点措置の適用を国に要請し、明後日から来月20日まで適用される方針が報道されている。これまでも、大学や企業、そして各団体等の皆様におかれては、学生や社員、地域の皆様の安全安心を図りながら、様々な工夫を凝らされ、教育研究活動、経済活動、そしてコミュニティ活動を行われてきた。コロナの影響により非常に厳しい状況であるが、市と大学、産業界、そして地域の皆様がまちづくりのパートナーとして連携協力し、それぞれの強みを最大限生かしていけるよう、市としても様々な施策を積極的に展開して参りたい。</p> <p>本日は、これからの時代に本市の高等教育はどうあるべきかという視点も踏まえつつ、姫路獨協大学の今後の在り方についてご議論いただきたい。限られた時間ではあるが、委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。</p>
会長	<p>3 議 事</p> <p>(1) 姫路獨協大学からの補足説明について</p> <p>追加資料「兵庫県下の大学を持つ法人の状況」について、姫路獨協大学から説明を求める。</p>
姫路獨協大学	<p>第3回審議会において、本学の財務状況について説明した際、繰越収支差額について説明したが、これは私立学校会計上の理論上の数字であり、債務を伴う赤字ではない。県下の他大学の数値を見ても、ほとんどの大学でマイナスであり、債務を伴う赤字ではないということを確認いただいた上で、ご議論いただきたい。</p> <p>また、財政シミュレーションについて、姫路市からは、非常にラフな形のものであるという前提で提示されたが、我々としては、さらに、入学金の単価に関する</p>

	<p>入学者数や入学者における市内外の割合の修正、運営交付金減少分の学生納付金による補充、授業料の低下に伴う1億円以上の奨学金の削減などが予測できると考える。そのような項目を考慮し、本学が試算したところでは、10年間で30億円以上、最大で50億円近くの黒字になる。授業料の扱い等によって試算は変わるので、前回のマイナスの幅の大きい試算だけではなく、いろいろなパターンがあることもご承知おきいただきたい。</p> <p>第3回の資料から、赤字のイメージが皆様の思考を惑わしてしまったのではないかと考えており、同様に、本日の資料1のうち、例えば3ページでは、収支のマイナス、大規模修繕、そして財政的なことが赤裸々に書かれており、次のページでも、大きな投資をしても見返りがないという表現になっている。本学は開学以来、平成17年までは黒字で、120億円以上の貯蓄をし、その資金を使って、医療保健学部、薬学部、看護学部を開設していった。上手く運用することにより、高等教育の充実を図ってきたのである。赤字や財政的な損失は、第3回の議論より遥かに小さいと考えている。</p>
会長	<p>追加資料を見ると、マイナスのついた大学が多く、姫路獨協大学が例外的ではないことは分かるが、薬学部を含む同じような大学で、例えば神戸薬科大学、武庫川女子大学の繰越収支差額は姫路獨協大学と一桁違っているが、それについてはどのようにお考えか。</p>
獨協学園本部	<p>個別の内容については存じていないので一般的な話になるが、学校法人会計の会計基準は企業とは全く別のものであり、一般企業と同じような見方はできない。また、学校法人は配当のようなすぐに出ていくお金は全くなく、基本金組入前当年度収支差額の合計が今までの累積の額であり、実績の収支ということになる。大学の場合は施設の関係等で、この繰越収支差額が大きく変わる。施設の更新が少なければ、プラスになる可能性が高いということをご承知おきいただきたい。</p>
委員	<p>追加資料について、例えば親和学園の場合は、幼稚園や中学校、高等学校もある。単に大学だけの資産なのか、或いは中高幼稚園などを含むものなのかで、判断も違って来るように思う。</p>
獨協学園本部	<p>資料は法人の状況であり、幼稚園を持っていればすべて入っている。姫路獨協大学については単体で記載しているが、他はすべて法人で、すべての学校種を含む。</p>

会長	獨協学園全体の繰越収支差額はどうか。参考として教えてほしい。
獨協学園本部	令和2年度末で繰越収支差額はマイナス1,273億円。ただし、純資産は1,489億円である。全体の収支として繰越収支差額を示すのは不適當である。学校法人会計は一般の企業とは違う会計基準であり、累積損失や累積収支を出すのであれば、別の作業が必要になることは申し上げておきたい。
会長	兵庫県下では、兵庫医科大学が、医科大学と薬学部と両方持っており、マイナス438億円という値が出ているが、獨協学園と3倍ほど違うのはどのように解釈したらいいのか。
獨協学園本部	<p>同じ会計基準で作られているので結果としては差がない。医科大学の場合、たいてい病院を持っており、繰越収支差額が赤字となる原因は、ほとんどが病院である。病院の施設は建物自体、通常の学校よりもかなり高額なもので、先端医療等には恒常的に設備投資を行っている。</p> <p>兵庫医科大学の場合は、大学病院と、小規模な病院、医療・介護施設の3つである。私どもの場合は、1,000床に近い病院が2つ、200床に近い病院が1つある。全く病院の規模が違う。それが反映されているとご理解いただきたい。</p> <p>(2) 姫路獨協大学の今後の在り方について</p>
事務局	資料1「姫路獨協大学の今後の在り方について」説明
会長	これまでの審議会の意見を姫路市がまとめたものであるが、取り上げられていない意見や、議論に入る前に出しておきたい意見などをお聞きしたい。
委員	資料1の3ページに「公正な民間競争を阻害する懸念があり、大学間の公平性が損なわれる」とある。私立大学の48%は定員に満たない状況というのが2021年度のデータである。そのような中でどうすれば学生確保ができるか、私立大学は非常に努力している。もし姫路獨協大学が公立大学法人化するのなら、「じゃあうちもお願いします」となると思う。公立になれば入学者は確保できるし、公の費用がたくさん入るので、大学運営もやりやすく理想の教育ができると思う。私立と公立というのは非常に大きな差があり、ましてや短期大学は入学定員に満たない大学がほとんどである。18歳人口が激減している中、大学の在り方を考えなくてははいけない

委員	<p>時期であると感じている。</p> <p>質問2つと意見を述べる。1点目、4ページの「姫路市が出資した50億円についても返してもらうということも考えていただかなければなかなか市民の了解は得られない」という件に関して、姫路獨協大学は今から30数年前に公私協力方式で作られた大学で、公立大学法人化が難しいということになった場合の選択肢として、事業譲渡・自主再建という方法が浮上するが、事業譲渡という選択肢を採る場合に、姫路市はその新しい経営主体とも公私協力方式で大学運営をするのかどうか。これは姫路市に対する質問である。</p> <p>2点目、事業譲渡の場合、50億円と土地についてどのような処理をするのか。今後の進め方について、姫路市と新しい経営主体だけで事業継承の話が進められていくことがないよう注視していきたい。</p>
委員	<p>追加資料を見たとき、姫路市には大きな負担をかけない、姫路市に助けってもらえなくても自主再建できるという意向を示す資料と思った。自主再建できるのなら、なぜ姫路市に公立大学法人化の要望を出したのかと疑問に思った。</p>
委員	<p>姫路市ほどの規模の自治体であれば、公的な大学があってもいいのではと考える。ただ、財政的にも難しい点があり、そこは市及び市議会で検討していただければよいと思っている。</p>
委員	<p>姫路獨協大学の公立大学法人化については、私は無理ではないかと考える。経営的にも難しく、これから学生数が伸びるとも思えない。よほど有名な先生が入れば別であるが、無理かと思う。ただ、今いる学生のことなども考えると、姫路市単独では無理であるが、兵庫県立大学などに考えてもらうのもいいのではという希望はある。あとは、姫路獨協大学の方で考えていただけたらいいのではと思う。</p>
委員	<p>公立大学法人化については、現実的には非常に厳しいと思っている。学生に望まれる大学を作っていこうとすると、それなりの教員を招聘していかなければならない。そこに相当な人件費がかかってくるので、財政的な負担は大きくなると思う。</p> <p>また、市立高等学校3校や公立幼稚園の統廃合の話も挙がっており、全体的な整理をしていかなければならない中で、市が新たに公立大学法人を持つことを市民の方々に納得をしていただくのは難しいと思う。</p>

委員	<p>さらにもう一点は、そもそも姫路市が大学を経営する力があるのかというところである。小中学校や高等学校とは違い、大学はまさに経営である。全国から学生を集めてこななければならない、その経営力自体が公務員に備わっているのか、うまく軌道に乗せる状況にまではいかないのではと感じている。</p> <p>公立大学法人化に関しては難しいのではないかと考えている。実際に大学を経営していくことを考えると、どのような人を集めて、どんな事業を実施し、どんな理念でどのように人を育てるか、経営として成り立たせ、かつ価値のある人材を育てる。そういうことを考えたときに、強い思いや事業として経営していくという理念を持つ方が運営するべきであると考えている。</p> <p>公立大学法人化したからといって上手くいく、授業料が少し安くなれば学生は集まるというものではないと思う。もし自主再建するのであれば、強い思いで、今の学生のことや、どういう人材を育てていきたいのかということを考えて実施してほしいと思うし、事業譲渡の話があればぜひ受けてはどうかと考える。</p>
委員	<p>姫路獨協大学には医療系の様々な学部・学科があり、医療現場の職員に対して専門教育を行っているので、存続してほしいと思うが、他の委員のこれまでの意見にも同感である。特に薬学部が議論の焦点になっているが、その他の学部は大丈夫なのか疑問に思った。薬剤師国家試験の合格率が低いということであるが、やはり教育は一人一人に合った方法でなされるべきで、良い指導者に恵まれれば、優秀な人材を育てることもできると思う。</p>
オブザーバー	<p>姫路獨協大学がこの地域にとってどういう存在だったのかという議論があまりなされていないと思う。30 数年間あつた場所であり、学生と地域の人々との関わりがあつたと思うが、地域の人々が姫路獨協大学に対してどういう思いを持っているのか分からなかった。今後在り方を考えていく中では、その存在価値をどう高めていくか、学生が色々な地域課題に取り組んでいけるような関わりをどんどん増やすなど、資料 6 ページの「地域の人や卒業生に愛される大学であるべき」という点は、収支以前に大事な観点ではないかと思う。</p> <p>また地方創生の観点から、兵庫県内の 37 大学で毎年約 2 万人の学生が卒業し、県内に残る学生は 3 割弱という中で、姫路獨協大学の卒業生の 7 割が県内に残るといふ、県内に定着される率が高いということには言及しておきたい。</p>

委員	<p>姫路獨協大学の公立大学法人化については、これまでの意見から、周辺の私立大学に影響が出ると考える。通常、事業再生では、まずは無駄を省いて、魅力のある新規事業に取り組み、そしてまたサイズを大きくしていくことを継続的に行っていくものであり、事業再生していくために、大学として魅力のある存在になっていくということを考えると、プランニングが重要であると思う。結論として、周辺の私立大学への影響があることと、プランニングが難しいと感じるので、公立大学法人化は難しいと考える。</p>
副会長	<p>私が大学院生のときに姫路獨協大学が開学し、非常勤講師をしていたことがある。その頃は非常に活性化しており、最新の情報教育をするんだという時代を見ていた。その後、いつの間にか受験者数がどんどん減少しているが、大学にとって受験者数というものは非常に重要なファクターであり、赤字覚悟で市が大学を運営していくのかということを考えると、姫路市民の了解は得られるのか疑問に思う。</p> <p>それ以外の選択肢となると、姫路獨協大学が獨協学園と一緒に経営していくことは可能なのか。それがどうしても無理なら、他の存続の道を探っていく必要がある。</p>
会長	<p>姫路市における高等教育の在り方は、市の将来にとって極めて重要であるということ認識している。獨協学園から姫路市に対し公立大学法人化の要望があったというのがこの審議会のきっかけであり、公立大学法人化しかないと考えられたのか、その要望を行ったことに関する真意を確かめたいという思いがあった。審議会において、公立大学法人化が絶対でないわけではないという意見もあったが、全体的な傾向では、他の私立大学との関係や、姫路市自身の大学経営の経験という問題も踏まえ、公立大学法人化は現実的には可能ではないという考え方が妥当であると考える。</p> <p>まずは、獨協学園が全体の叡智を結集してしっかりとした自主再建を行うのが一番基本であり、それも可能な経済的な背景にあるということをお伺いしたので、自主再建ということと、それに次いで、姫路市の高等教育の必要性への理解と新しい発展のビジョンを持った法人への譲渡もありうるという考えを持っている。</p> <p>次に、市が出資した 50 億円の扱い方と譲渡した場合の公私協力方式の継続に係る質問について、市の回答をお願いします。</p>
事務局	<p>公私協力方式の継続や、50 億円の扱いについては、現時点で答えを持ち合わせて</p>

	<p>いない。出資金と土地については、法的な解釈を整理しながら検討していく。</p> <p>姫路市からも2名、獨協学園の理事に入っており、理事会等で参画していくほか、連携・協力していく必要があると考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>譲渡となった場合でも、公私協力方式をとり、出資していたことに関しては、無視できることではないと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>現経営陣の中に副市長が理事として入っており、その経営の議論に加わっていくという回答をされたが、私の質問は、開学時に公私協力方式という中で50億円と土地の出資が行われた、その扱いについてどうするかということである。現経営陣の内の2人として加わっているからその使命が果たせるというものとは別問題である。仮定の話で即答は難しいと思うが、市と、現経営陣と新しい経営主体が密室的に事業継承の話をするというのは、当初の公私協力方式を軽視している。しっかり議論された上で進まないといけないのではないか。</p>
<p>会長</p>	<p>公私協力方式の考え方は継続した上で今後の活動に反映してほしいという意見であると思う。</p> <p>それを含めて、1の検討課題について、現状の全体的な意見としては、公立大学法人化を最優先の課題としてこの審議会が答申することは難しいという状況ではないかと思う。これに異論はあるか。</p> <p>(異議なし)</p>
<p>会長</p>	<p>公立大学法人化しない場合に獨協学園に期待することに関しては、「自主再建に関して大学としてのビジョンを持ち、姫路獨協大学と獨協学園のすべてを結集し、経営状態も他大学と比較して劣るものではないということから、原点に立ち返っていただき、現状打破に向けて活動をお願いします」ということが一つ。また、「条件が優れた他大学への譲渡」もありうる。その場合には、できれば複数の候補の中から一番適切な譲渡先を選択するのが望ましいと考える。そういったことも踏まえ、検討課題2番目の「公立大学法人化しない場合に、学校法人獨協学園に期待すること」について発言のある方はいるか。</p>
<p>委員</p>	<p>これまでの資料の中で、同窓生の意向というものがなかったと思う。兵庫県立姫</p>

	<p>路短期大学が廃止される時に、県の意向で、幼児教育と食物栄養の学科を廃止することになったが、兵庫県立大学環境人間学部の設置の過程で、同窓生の方々が、栄養士と管理栄養士は社会のニーズがあり必ず必要であると強く働きかけ、食環境栄養課程が設置された経緯がある。同窓生の力というもの是非常に大きいと感じている。何らかの形で同窓生の力も借りながら、方向を探られるというのも一つの方法ではないかと思う。</p>
会長	<p>公立大学法人化に関する検討で、県立大学にという意見もあったが、これに対する意見はどうか。</p>
副会長	<p>姫路市や姫路獨協大学から、県と市と一緒にやって欲しいという要望が出るのであれば、はじめて兵庫県立大学として検討できるのではないかと。</p> <p>姫路短期大学の同窓会は環境人間学部のユリノキ会として非常に強い形で残っている。姫路獨協大学の同窓生の方がどういう形で組織して、今後意見を出していくのかというところは非常に重要であると思う。</p>
委員	<p>自主再建をしていただくとき、50 億円と土地を姫路市が出資したがゆえに、市もずっと関わっていかなければいけないという思いがあるのか。長年、姫路獨協大学を運営されてきているので、昔に出資したお金は出したものとして、市と大学の関係は切り、獨協学園だけで考えていただくつもりなのか、市は少し関わるという中途半端な考えなのか、市の方に聞きたい。</p>
事務局	<p>理事として参画しており、獨協学園に「お好きにどうぞ」というわけにはいかないと思う。</p>
会長	<p>理事として参画していなくても、姫路市の高等教育として、色々な意味での連携は必要なのではないかと思う。現在は理事を 2 名出しており、姫路市の責任もゼロではないということは考えていただく必要があると思う。</p>
委員	<p>理事 30 名程度の中の 2 名として発言する姫路市の理事としての意向と、30 数年前に 50 億円と土地を拠出したという行政体としての立場は違う。事業譲渡する場合の新しい経営体との公私協力方式については、はっきりと整理し、密室ではなくきちんと公開をして議論しなければいけない。</p>

事務局	<p>議会等に報告しながら進めていくので、そこは安心していただきたい。</p>
会長	<p>譲渡の際にはこれまでの歴史を踏まえ、姫路市が責任をもって関与して欲しい。他に自主再建と事業譲渡について意見はあるか。</p>
委員	<p>獨協学園自体がしっかりとテコ入れして自主再建していただくというのがやはり一番の本筋であろうと思う。これまでの説明では、姫路獨協大学自体は完全に独立採算という話が再三あったが、やはり学園全体として子供たちの未来について責任を持って考えていただくということをぜひお願いしたいと考える。</p> <p>事業譲渡になった場合は、獨協学園の看板などを最大限活かしていただきながら、積極的に譲渡先を探すことを検討いただく必要があると思う。要は、どのようにパワーアップしてこの地域で高等教育を維持できるかしっかりと考えていただきたい。当時、地域の方々が本当に熱い思いを持って開学まで努力をし続けてこられたという話があったが、そういう一つ一つの大学設立の経緯のようなものを、獨協学園、姫路獨協大学、姫路市はどこかで見失ってきている。姫路市に責任がないのかということそうではないと思う。それぞれの立場ででき得ることという意味で、自主再建についての獨協学園の考え方、それが難しいのであれば、譲渡先をしっかりと見つけてくるという努力をやっていかなければならないのではないかと思う。</p>
会長	<p>姫路市の高等教育に対する熱い要望が伝わってきた。他の委員も同じ気持ちではないかと思う。他にこの審議会の答申について、ぜひ加えていただきたいという意見はあるか。</p>
委員	<p>姫路市が 50 億円を出資しているので、市もある程度関わらないといけないという感じになっているのかなと思う。ただ、経済社会においては、私の考えでは、市が 50 億円を出資したが失敗したという結論である。土地などは譲渡先にも買ってもらうなり、姫路市が返してもらうなりでよいと思うが、今後どんどん税金を使っていくよりは、もうこの辺で線を引いて、姫路市の出資が失敗したという結論でもいいのではないか。もう一点、教育には莫大なエネルギーが必要だと感じている。昔の姫路獨協大学は本当に大きなエネルギーを持っている印象であったが、最近はそのエネルギーが少ないように外からは見えており、もう少しエネルギーを上げてもらえればいい大学になるのではと思う。</p>

会長	<p>ほぼ意見を出していただいたので、これらの意見を反映し答申を出していきたいと思う。</p>
委員	<p>第4回審議会までの意見しか答申書には盛り込まないという趣旨か。第5回に新しい意見が出た場合、最終的な答申には採用されないということになるのか。</p>
会長	<p>全体の意見としてまとめていくというのが基本的な方針で、第5回の新しい意見を全体の意見の中に反映させるというのは無理ではないかと思う。今回発言していただくことが必要である。発言を審議会の意見とすべきか少数意見とすべきかについては、議論したいと思う。</p>
委員	<p>50億円の出資が失敗であったという意見について、少なくとも私は「50億円については失敗したからもう要らない」ととられると非常に問題があると思う。寄付金なり血税を使ったわけであり、それを放棄するということを市民に対して発することは不適當であると思う。</p>
委員	<p>市として大学等に出資した場合は、法人や企業の配当や利益を受け取るものとは違い、50億円の出資を取り返すということ自体は無理である。過去の負の遺産を引きずっても仕方がないので、出資した分についてはそれなりの学生を世に輩出したというところで、この辺で線を引いたらどうかという意見である。</p>
委員	<p>最初の質問に戻るが、事業譲渡という選択肢を採る場合、姫路市はその新しい経営主体とも公私協力方式で大学運営をするのか。</p>
事務局	<p>公私協力方式を今と同じ形で継続するのかわについては、現在のところ具体的な方向性はない。ただ方向性が決まった場合には議会にその考え方を示し、了解いただくことになる。</p>
委員	<p>理事が入っているのにこういう状況になるまで姫路市は何をやっていたのか、莫大な税金を入れて作った学校を眺めていただけなのか。税金を払う姫路市民のことをもっと考えてもらわないといけない。この審議会は次の第5回目で答申書を作るので、答えをちゃんと持ち合わせないといけないと思う。財政的に厳しいから公立大学法人化には手を挙げられないと言っているだけではないか。目の前の子供たち</p>

	<p>に熱い思いがあれば、私は姫路獨協大学を存続してほしいと言いたい。しかし市立高校3校が1校になる、地元の幼稚園も園舎を建てかえるお金がないから廃止になる中、公立大学法人化には賛成できない。</p>
委員	<p>自主再建をしようとしたが、結局無理であったというときに、それでもう終わりでいいのか、もう一度検討があるのかどうか分からない。</p>
会長	<p>それらも反映した答申案の作成を目指したいと考える。意見は大体出尽くしたのではないかと思うので、これまでの意見を答申案にまとめていく。今後の予定について、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p>4 その他</p> <p>第1回から第4回までの意見をまとめた答申案を会長、副会長と作成したいと考えている。2月19日に第5回の会議を予定しているが、それまでには委員の皆様の意見を伺い、修正等があれば会長、副会長と協議した上で、第5回の会議で提示したい。</p>
会長	<p>これまでの意見と本日の議論を踏まえた答申案を、会長と副会長、事務局で作成し、次回の審議会で議論いただき、最終的な答申案としてまとめるという予定である。以上で本日の審議はすべて終了した。事務局に返す。</p>
事務局	<p>次回の会議は、令和4年2月19日土曜日午後で開催する。時間と会場については決まり次第連絡する。</p> <p>5 閉会</p>